

(2) 研究発表①

「担任として取り組んできたこと

～より良い人間関係の構築と自己肯定感の向上を求めて～」

宮城県大河原商業高等学校 教諭 瀬川 秀人

1 はじめに

まず、なぜこの発表題に決定したかの経緯である。現在、担当するクラス(4-1)は1年生からの持ち上がりのため、今年度で4年目になる。担任と生徒間や生徒同士が信頼関係を築いていけるよう取り組んできたことを整理し、どれほどの成果があったのかを改めて振り返りたいと考えた。また、今後も指導していくにあたり、他校や他の先生方の助言も頂きたいと感じた。

2 担当クラスについて

(1) 生徒の実態

クラスは男子6名、女子7名の計13名である。13名中8名が小中学校時に不登校や別室登校を経験している。その理由は様々で学習意欲の低下や教室に入室することへの恐怖、友人との付き合いのトラブルなどである。また、クラスの中には成人している生徒も2名おり、最年長は今年度、39歳になる。全体的に自己肯定感が低く、自分ができないことに対して、拒否反応を示す。自分を正当化したり、物事に対しての取り組みが非常に消極的である。

(2) 入学当初に感じたこと

当然、色々な個性を持った生徒がおり、少人数ではあるが一人ひとりの指導にとってもやりがいがあると感じ、クラスをひとつにまとめていくことも中

々大変だと感じた。その中で一番に欠けていたことは集団生活の経験である。他人に無関心であり、自分優先で物事を進めていこうとする生徒が多数存在していた。集団生活の経験が乏しいことが原因だと考える。

3 指導目標の設定

- ①協 力
- ②責 任 感
- ③意欲向上

この3つを軸にクラスを運営していこうと考えた。①協力では、自己中心的な言動を改め、助け合いながら生活していくことやあいさつを交わすこと、互いの意見を尊重し合うなどのコミュニケーション能力の向上を目標としている。②責任感では、自分に与えられた役割に責任を持って取り組むこと、ゆくゆくは言われなくても行動できる自主性につなげていくことを目標としている。③意欲向上は、自己肯定感を高め、失敗を恐れずに挑戦する気持ちや登校意欲の向上を目標としている。ただ、この3つは単独で切り離せるものではなく、影響し合い向上するものでもある。

4 具体的な取り組み

- (1) アイスブレイク・MAP・SST
- (2) 担当教科での授業
- (3) 空き時間の有効活用
- (4) クラスでの役割

- (5) 二者面談（自己理解の啓発等）
- (6) 校内外活動の奨励（アルバイト等）

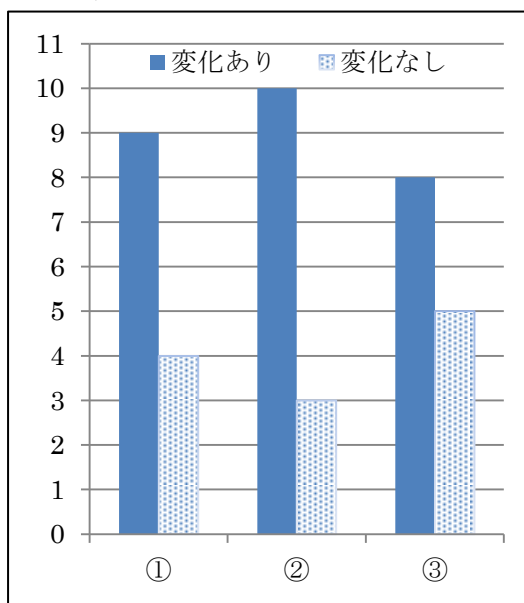
6 成果

(1) アンケート

生徒達自身が、どれだけ変化したことを実感しているか確認するためにこれまでの生活を振り返ってという内容のアンケート実施した。アンケートの質問項目は以下の通りである。

- ①人間関係について、関わり方に変化はありましたか。
- ②自分に与えられた仕事の取組み方に変化はありましたか。
- ③物事の取り組みに対する意欲に変化はありましたか。

この項目に対して、「変化あり」と「変化なし」のどちらかに○をつけるというものである。また、それだけではなく、それぞれの項目に対してなぜ、そう感じたかを記述させる欄も作成した。以下は、アンケート結果である。



(2) まとめ

アンケートの結果だけをみれば大半の生徒が自分の変化について気付いており、それが現在の生活に影響していると考ええる。そのきっかけは何かと問われれば正直、明確には証明できない。生徒達もあまり理解していない様子である。ただ、アンケートの記述欄には、アルバイトや生徒会の活動を通して変化できたと記入している生徒もいた。また、人数が少ない中でも男女とも仲良く過ごすことができていたのは、それこそ日々の積み重ねである。行事や話し合いなど協力すべき時に協力し合うことができていた。入学当初と比較すれば、大きな成長である。

7 今後の課題

高校生活を通して、だんだんとできることが多くなってきたことは確かだが、これまでの経験が意欲の面で悪影響を及ぼしていると感じる。「失敗」や「できない」ということに対してまだまだ敏感な生徒もいる。面談の中で話を聞くが、失敗すらずに最初から諦めていることが多い。それは学ぶ機会を自らなくしていること理解させていかなければいけない。失敗するからできないからではなく、何事も挑戦することが重要である。まずは、難しくても継続して取り組む姿勢を育成していければと考える。また、それができている生徒もいるが、人と比較するのではなく自分にできていることに達成感を感じることで自己肯定感を向上できるよう学校全体や家庭とも連携していければと考える。